

日本特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office

出願年月日
Date of Application:

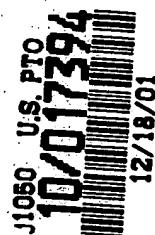
2000年12月26日

出願番号
Application Number:

特願2000-395799

出願人
Applicant(s):

パイオニア株式会社

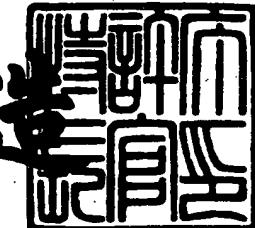


CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年10月26日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕



【書類名】 特許願

【整理番号】 55P0319

【提出日】 平成12年12月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 13/38 330

G06F 13/10 310

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県所沢市花園4丁目2610番地 パイオニア株式
会社 所沢工場内

【氏名】 林 一博

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県所沢市花園4丁目2610番地 パイオニア株式
会社 所沢工場内

【氏名】 高橋 翔

【特許出願人】

【識別番号】 000005016

【氏名又は名称】 パイオニア株式会社

【代理人】

【識別番号】 100083839

【弁理士】

【氏名又は名称】 石川 泰男

【電話番号】 03-5443-8461

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007191

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特2000-395799

【包括委任状番号】 9102133

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 サーバ装置及びサーバ処理方法、端末装置及び端末処理方法、情報処理システム並びに情報記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記サーバ装置において、

各前記情報に一対一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を記憶する対応情報記憶手段と、

前記端末装置に出力すべき前記情報を、当該情報に対応する前記対応情報と共に当該端末装置に出力する出力手段と、

前記端末装置から前記出力した対応情報が返還されてきたとき、当該返還されてきた対応情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該対応情報に代えて前記対応情報記憶手段に記憶させる記憶制御手段と、

を備えることを特徴とするとするサーバ装置。

【請求項2】 請求項1に記載のサーバ装置において、

前記蓄積手段に蓄積されている情報全体を一括して示す一括情報を記憶する一括情報記憶手段を更に備えると共に、

前記出力手段は、前記情報及び前記対応情報を前記端末装置に出力するに当たって、前記一括情報をも併せて出力し、

更に前記記憶制御手段は、前記端末装置から前記出力した一括情報が返還されてきたとき、当該返還されてきた一括情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該一括情報に代えて前記一括情報記憶手段に記憶させることを特徴とするサーバ装置。

【請求項3】 請求項2に記載のサーバ装置において、

前記一括情報は、前記蓄積手段に蓄積されている全ての前記情報の内容を一括して示す一括内容情報及び全ての前記情報の属性を一括して示す一括属性情報を

少なくとも含んでいることを特徴とするサーバ装置。

【請求項4】 請求項1から3のいずれか一項に記載のサーバ装置において

各前記情報は曲であると共に、

前記内容情報は当該曲の名称であり、

更に前記属性情報は、当該曲が前記端末装置において活用された度合いを示す活用情報であることを特徴とするサーバ装置。

【請求項5】 複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記端末装置において

各前記情報に一对一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を、当該対応情報が対応する前記情報と共に前記サーバ装置から取得する取得手段と、

前記取得された情報を活用する活用手段と、

前記活用された情報に対応する前記対応情報を、当該活用の態様に依存して変更する変更手段と、

前記変更された対応情報を前記サーバ装置に返還する返還手段と、
を備えることを特徴とする端末装置。

【請求項6】 請求項5に記載の端末装置において、

前記取得手段は、前記情報及び前記対応情報と共に、前記蓄積手段に蓄積されている情報全体を一括して示す一括情報を前記サーバ装置から取得すると共に、

前記変更手段は、前記取得した一括情報を、前記情報の活用の態様に依存して併せて変更し、

更に前記返還手段は、前記変更された対応情報及び前記変更された一括情報を前記サーバ装置に返還することを特徴とする端末装置。

【請求項7】 請求項6に記載の端末装置において、

前記一括情報には、前記蓄積手段に蓄積されている全ての前記情報の内容を一括して示す一括内容情報及び全ての前記情報の属性を一括して示す一括属性情報

が少なくとも含まれていることを特徴とする端末装置。

【請求項8】 請求項5から7のいずれか一項に記載の端末装置において、各前記情報は曲であると共に、前記内容情報は当該曲の名称であり、更に前記属性情報は、当該曲が前記端末装置において活用された度合いを示す活用情報であることを特徴とする端末装置。

【請求項9】 請求項1から4のいずれか一項に記載のサーバ装置と、請求項5から8のいずれか一項に記載の端末装置と、を含んでいることを特徴とする情報処理システム。

【請求項10】 複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記サーバ装置に含まれるサーバコンピュータを、

各前記情報に一对一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を記憶する対応情報記憶手段、

前記端末装置に出力すべき前記情報を、当該情報に対応する前記対応情報と共に当該端末装置に出力する出力手段、及び、

前記端末装置から前記出力した対応情報を返還してきたとき、当該返還してきた対応情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該対応情報に代えて前記対応情報記憶手段に記憶させる記憶制御手段、

として機能させることを特徴とするサーバプログラムが前記サーバコンピュータで読み取可能に記録されている情報記録媒体。

【請求項11】 複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記端末装置に含まれている端末コンピュータを、

各前記情報に一对一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を、当該

対応情報が対応する前記情報と共に前記サーバ装置から取得する取得手段、
前記取得された情報を活用する活用手段、
前記活用された情報に対応する前記対応情報を、当該活用の態様に依存して変更する変更手段、及び、
前記変更された対応情報を前記サーバ装置に返還する返還手段、
として機能させることを特徴とする端末プログラムが前記端末コンピュータで読み取可能に記録されている情報記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、サーバ装置及びサーバ処理方法、端末装置及び端末処理方法、情報処理システム並びに情報記録媒体の技術分野に属し、より詳細には、複数の情報を蓄積すると共にこれらを端末装置に出力して活用させるためのサーバ装置及びサーバ処理方法、当該サーバ装置から出力されてきた情報を活用するための端末装置及び端末処理方法、当該サーバ装置及び端末装置を含む情報処理システム並びに当該サーバ装置用又は端末装置用の制御プログラムが各装置にて読み取可能に記録されている情報記録媒体の技術分野に属する。

【0002】

【従来の技術】

近年、家庭内に設置されているオーディオ装置を多数の曲を蓄積するサーバ装置として機能させ、当該オーディオ装置から携帯用の小型の端末装置に複数の曲を複写して記憶させ、これを外出先等で再生することにより曲を聴取する構成のオーディオシステムが開発されている。

【0003】

このとき、従来のオーディオシステムにおいては、著作権保護上の要請から、曲の取扱いとしてはオーディオ装置から端末装置に複写されるのみであり、当該複写された曲が端末装置から再度オーディオ装置の方に返還されることはなかった。

【0004】

また、上述した従来のオーディオシステムにおいては、過去において端末装置にどのような曲が複写されて聴取されたか、或いは複写された回数が多い曲（すなわち、端末装置において聴取された回数が多くその使用者の嗜好に合った曲）はどの曲か、等の情報を活用して曲を選択するということは為されていなかった。

【0005】

更に、オーディオ装置に蓄積されている曲全体を統括する情報を用いることも為されていなかった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述したような曲の聴取状況を示す情報を活用しない場合には、その端末装置の使用者においてどのような曲を嗜好するのか等の曲の使用状況をサーバ装置内に蓄積することができず、例えば最近聞いて気に入った曲を再度聞きたいとか、或いは過去に聞いたことのある特定の曲を再度聴取する場合に最終の聴取日でその曲を特定して端末装置に再度出力するといったような、使用者の聴取の態様に合わせた選曲及び出力ができないという問題点があった。

【0007】

また、オーディオ装置に蓄積されている曲全体を統括する情報を用いない場合には、端末装置においてオーディオ装置内に他にどのような曲が蓄積されているかを即座に確認することができます、例えば次に端末装置に曲を複写する場合にいずれの曲を複写するかを予め予約するといった処理ができず利便性が低いという問題点もあった。

【0008】

そこで、本発明は、上記の各問題点に鑑みて為されたもので、その課題は、端末装置の使用者における聴取の態様に合わせて曲を複写するように蓄積しておくことが可能であると共に曲を聴取する際の利便性を向上させることが可能なサーバ装置及びサーバ処理方法、当該サーバ装置から出力されてきた情報を利便性よく活用するための端末装置及び端末処理方法、当該サーバ装置及び端末装置を含む情報処理システム並びに当該サーバ装置用又は端末装置用の制御プログラムが

各装置にて読み取可能に記録されている情報記録媒体を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するために、請求項1に記載の発明は、複数の情報を蓄積する主記憶部等の蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記サーバ装置において、各前記情報に一対一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を記憶する副記憶部等の対応情報記憶手段と、前記端末装置に出力すべき前記情報を、当該情報に対応する前記対応情報と共に当該端末装置に出力するCPU等の出力手段と、前記端末装置から前記出力した対応情報を返還してきたとき、当該返還してきた対応情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該対応情報を代えて前記対応情報記憶手段に記憶させるCPU等の記憶制御手段と、を備える。

【0010】

よって、各情報に一対一に対応する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還してきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するので、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力し当該端末装置において過去の活用態様を反映して活用することができる。

【0011】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0012】

上記の課題を解決するために、請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のサーバ装置において、前記蓄積手段に蓄積されている情報全体を一括して示す一括

情報を記憶する副記憶部等の一括情報記憶手段を更に備えると共に、前記出力手段は、前記情報及び前記対応情報を前記端末装置に出力するに当たって、前記一括情報をも併せて出力し、更に前記記憶制御手段は、前記端末装置から前記出力した一括情報が返還されてきたとき、当該返還されてきた一括情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該一括情報に代えて前記一括情報記憶手段に記憶させるように構成される。

【0013】

よって、各情報を一括して示す一括情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還されてきた一括情報を出力前の元の一括情報に代えて記憶するので、端末装置においてその活用の態様に応じて一括情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0014】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0015】

上記の課題を解決するために、請求項3に記載の発明は、請求項2に記載のサーバ装置において、前記一括情報は、前記蓄積手段に蓄積されている全ての前記情報の内容を一括して示す一括内容情報及び全ての前記情報の属性を一括して示す一括属性情報を少なくとも含んでいるように構成される。

【0016】

よって、一括情報が一括内容情報及び一括属性情報を少なくとも含んでいるので、より明確に各情報の活用の態様をサーバ装置において把握することができる。

【0017】

上記の課題を解決するために、請求項4に記載の発明は、請求項1から3のいずれか一項に記載のサーバ装置において、各前記情報は曲であると共に、前記内

容情報は当該曲の名称であり、更に前記属性情報は、当該曲が前記端末装置において活用された度合いを示す活用情報であるように構成される。

【0018】

よって、複数の曲を端末装置に対して出力し、当該端末装置においてその曲を聴取したときに対応情報の内容を変更して返還することで、当該端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の曲の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができると共に、当該サーバ装置において各曲を聴取する場合にも、端末装置における聴取の態様を反映させることができる。

【0019】

上記の課題を解決するために、請求項5に記載の発明は、複数の情報を蓄積する主記憶部等の蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記端末装置において、各前記情報に一対一に対応する対応情報であって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を、当該対応情報が対応する前記情報と共に前記サーバ装置から取得するCPU等の取得手段と、前記取得された情報を活用する活用手段と、前記活用された情報に対応する前記対応情報を、当該活用の態様に依存して変更するCPU等の変更手段と、前記変更された対応情報を前記サーバ装置に返還するCPU等の返還手段と、を備える。

【0020】

よって、各情報と共に出力されてきた対応情報を、各情報の活用の態様に応じて変更した後にサーバ装置に返還するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力させることができる。

【0021】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0022】

上記の課題を解決するために、請求項6に記載の発明は、請求項5に記載の端末装置において、前記取得手段は、前記情報及び前記対応情報と共に、前記蓄積手段に蓄積されている情報全体を一括して示す一括情報を前記サーバ装置から取得すると共に、前記変更手段は、前記取得した一括情報を、前記情報の活用の態様に依存して併せて変更し、更に前記返還手段は、前記変更された対応情報及び前記変更された一括情報を前記サーバ装置に返還するように構成される。

【0023】

よって、各情報を一括して示す一括情報を当該各情報と共に取得し、各情報の活用の態様に応じて一括情報を変更した後にサーバ装置に返還するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる

【0024】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0025】

上記の課題を解決するために、請求項7に記載の発明は、請求項6に記載の端末装置において、前記一括情報には、前記蓄積手段に蓄積されている全ての前記情報の内容を一括して示す一括内容情報及び全ての前記情報の属性を一括して示す一括属性情報が少なくとも含まれているように構成される。

【0026】

よって、一括情報に一括内容情報及び一括属性情報が少なくとも含まれているので、より明確に各情報の活用の態様をサーバ装置において把握することができる。

【0027】

上記の課題を解決するために、請求項8に記載の発明は、請求項5から7のいずれか一項に記載の端末装置において、各前記情報は曲であると共に、前記内容

情報は当該曲の名称であり、更に前記属性情報は、当該曲が前記端末装置において活用された度合いを示す活用情報であるように構成される。

【0028】

よって、複数の曲を聴取したときに対応情報の内容を変更して返還するので、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の曲の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0029】

また、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各曲を聴取する場合にも、端末装置における曲の聴取の態様を反映させることができる。

【0030】

上記の課題を解決するために、請求項9に記載の発明は、請求項1から4のいずれか一項に記載のサーバ装置と、請求項5から8のいずれか一項に記載の端末装置と、を含んでいる。

【0031】

よって、各情報に一対一に対応する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還し、更に当該端末装置から返還されてきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0032】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0033】

上記の課題を解決するために、請求項10に記載の発明は、複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処

理システムにおける前記サーバ装置に含まれるサーバコンピュータを、各前記情報に一対一に対応する対応情報をあって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を記憶する対応情報記憶手段、前記端末装置に出力すべき前記情報を、当該情報に対応する前記対応情報と共に当該端末装置に出力する出力手段、及び、前記端末装置から前記出力した対応情報が返還されてきたとき、当該返還されてきた対応情報を、前記サーバ装置からの前記出力前の当該対応情報に代えて前記対応情報記憶手段に記憶させる記憶制御手段、として機能させるためのサーバプログラムが前記サーバコンピュータで読み取可能に記録されている。

【0034】

よって、各情報に一対一に対応する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還されてきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するようにサーバコンピュータが機能するので、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0035】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0036】

上記の課題を解決するために、請求項11に記載の発明は、複数の情報を蓄積する蓄積手段を備えると共に当該情報を端末装置に出力するサーバ装置と、当該出力された情報を取得して活用する前記端末装置と、を含んで構成される情報処理システムにおける前記端末装置に含まれている端末コンピュータを、各前記情報に一対一に対応する対応情報をあって、各前記情報の内容を示す内容情報及び各前記情報の属性を示す属性情報を少なくとも含む対応情報を、当該対応情報が対応する前記情報と共に前記サーバ装置から取得する取得手段、前記取得された情報を活用する活用手段、前記活用された情報を対応する前記対応情報を、当該

活用の態様に依存して変更する変更手段、及び、前記変更された対応情報を前記サーバ装置に返還する返還手段、として機能させるための端末プログラムが前記端末コンピュータで読み取可能に記録されている。

【0037】

よって、各情報と共に出力されてきた対応情報を、各情報の活用の態様に応じて変更した後にサーバ装置に返還するように端末コンピュータが機能するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力させることができる。

【0038】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0039】

【発明の実施の形態】

次に、本発明に好適な実施の形態について、図面に基づいて説明する。

【0040】

なお、以下に説明する実施の形態は、多数の曲（楽曲）を蓄積すると共にその中から使用者に所望される曲を端末装置に転送・複写させることができるサーバと、当該サーバから転送されてきた曲を記憶すると共にこれらを使用者の操作により再生して出力することが可能な携帯型の端末装置と、を含むオーディオシステムにおける曲の転送処理に対して本発明を適用した場合の実施の形態である。

【0041】

(I) 全体構成の実施形態

始めに、実施形態に係るオーディオシステムの全体構成及び基本動作について図1乃至図4を用いて説明する。

【0042】

なお、図1は当該オーディオシステムの全体構成を示すブロック図であり、図2は後述する対応情報及び一括情報（以下、当該対応情報及び一括情報を纏めて、適宜対応情報等と称する。）の内容を示す図であり、図3及び図4は実施形態

に係る対応情報等の取扱いを夫々模式的に説明する模式図である。

【0043】

図1に示すように、実施形態に係るオーディオシステムSは、多数の曲を蓄積すると共に、使用者により所望する曲が選択されると、その選択された曲及びその曲に対応する対応情報等を端末装置10に転送して複写させるサーバ1と、当該サーバ1から転送されてきた曲を複写・記憶すると共に必要に応じて当該記憶している曲を聴取することが可能な携帯型の端末装置10と、により構成される。

【0044】

なお、当該端末装置10は、サーバ1から転送されてきた曲の聴取が完了すると、その完了後の態様に基づいて内容が変更された上記対応情報等を使用者の操作によりサーバ1に返還する動作も行う。

【0045】

次に、サーバ1及び端末装置10の細部構成及び動作について説明する。

【0046】

先ず、サーバ1は、操作部2と、表示部3と、出力手段及び記憶制御手段としてのCPU4と、蓄積手段としての主記憶部5a並びに対応情報記憶手段及び一括情報記憶手段としての副記憶部5bからなる外部記憶部5と、インターフェース6と、出力部7と、により構成されている。

【0047】

一方、端末装置10は、操作部11と、表示部12と、インターフェース13と、取得手段、変更手段及び返還手段としてのCPU14と、出力部15と、主記憶部16a及び副記憶部16bからなる外部記憶部16と、により構成されている。

【0048】

次に、オーディオシステムSとしての基本動作を説明する。

【0049】

最初に、サーバ1における基本動作について説明する。

【0050】

サーバ1内の外部記憶部5における主記憶部5aには、多数の曲Mが、例えば図3左に示すように相互に識別可能に蓄積・記憶されている。なお、図3左においては、第1曲M1乃至第12曲M12が主記憶部5a内に蓄積・記憶されている。そして、これら各曲Mは、CPU4からの制御により曲信号Smとして当該CPU4に出力される。

【0051】

次に、サーバ1内の外部記憶部5における副記憶部5bには、主記憶部5a内に蓄積・記憶されている各曲Mに一对一に対応する様で、当該各曲Mの内容及びその属性を示す対応情報Tが例えば図3左に示すように相互に識別可能に且つ各曲M毎に蓄積・記憶されている。なお、図3左においては、上述した第1曲M1乃至第12曲M12に夫々一对一に対応する様で第1対応情報T1乃至第12対応情報T12が副記憶部5b内に蓄積・記憶されている。

【0052】

ここで、一の曲Mに対応して記憶されている一の対応情報Tに含まれている情報について、図2(a)を用いて説明する。

【0053】

図2(a)に示すように、一の対応情報T内には、当該対応情報Tが一对一に対応付けられる曲Mの内容及び属性を示す情報が含まれており、具体的には、当該曲Mの曲名を示す曲名情報20と、その曲名の読み仮名を示す読み仮名情報21と、その曲を演奏又は歌唱している演奏者又は歌手を示すアーティスト情報22と、その曲の属する音楽上のジャンル(カテゴリ)を示すジャンル情報23と、その曲の嗜好度(すなわち、どの程度頻繁に使用者によって聴取されているかを示す嗜好度)を示す嗜好度情報24と、その曲が主記憶部5a内に格納された日を示す録音日情報25と、その曲が端末装置10上で最後に聴取された日を示す最終聴取日情報26と、その曲がサーバ1から端末装置10に転送された回数を示す転送回数情報27と、その曲が最後に聴取されたときに再生が停止された位置を示す再生停止位置情報(具体的には、その曲の途中で再生(聴取)が停止されたときはその停止された位置の曲の最初からの時間情報)28と、が含まれている。

【0054】

次に、上記副記憶部5 bには、上記当該主記憶部5 a内に蓄積・記憶されている各曲M全体に対応する態様で各曲Mを総括的に示す一括情報TLが例えば図3左に示すように記憶されている。

【0055】

ここで、各曲M全体に対応して記憶されている一括情報TLに含まれている情報について、図2 (b) を用いて説明する。

【0056】

図2 (b) に示すように、一括情報TL内には、主記憶部5 aに蓄積・記憶されている全ての曲Mの内容及び属性を示す情報が一括して含まれており、具体的には、全ての曲Mの曲名を一覧表として記述した保有曲名一覧30と、各曲Mを演奏又は歌唱している演奏者又は歌手を一覧表として記述した保有曲アーティスト一覧31と、各曲Mが主記憶部5 a内に格納された日を曲別に一覧表として記述した曲別録音日一覧32と、各曲Mが端末装置10上で最後に聴取された日を曲別に一覧表として記述した最終聴取日一覧33と、各曲Mの嗜好度を曲別に一覧表として記述した曲別嗜好度一覧34と、次回に端末装置10へ転送行うことが予約されている曲Mを示す予約情報35と、が含まれている。

【0057】

なお、上述した内容を夫々に含む各対応情報T及び一括情報TLは、CPU4からの制御により対応情報信号Ssbとして当該CPU4に出力されると共に、後述するように当該対応情報T及び一括情報TLが端末装置10において変更されて返還してきたときは、その返還してきた対応情報T及び一括情報TLが対応情報信号Ssbとして当該CPU4から出力され、これらが元の対応情報T及び一括情報TLに代わって副記憶部5 b内に記憶される。

【0058】

一方、操作部2において端末装置10を携帯する使用者によりその端末装置10において聴取する曲Mが選択されると、当該操作部2は、その曲Mを示す操作信号Scsを生成してCPU4に出力する。

【0059】

これに加えて、操作部2において使用者によりサーバ1において聴取する曲Mが選択されると、当該操作部2は、その曲Mを示す操作信号S_{cs}をも生成してCPU4に出力する。

【0060】

これらにより、CPU4は、操作部2からの操作信号S_{cs}に基づいて、曲Mをサーバ1において聴取する場合には、当該聴取される曲Mを曲信号S_mとして主記憶部5aから読み出し、これを出力信号S_{os}として出力部7に出力する。

【0061】

そして、出力部7は、当該出力信号S_{os}内に含まれている曲Mを上記使用者に対して出力する。この出力の態様として具体的には、例えば、図示しないスピーカを介して直接出力しても良いし、或いは、出力部7にヘッドフォン又はイヤフォン等が接続されているときはそのヘッドフォン等に出力しても良い。

【0062】

これと並行して、曲Mをサーバ1において聴取する場合にCPU4は、その曲Mに対応する対応情報T及び一括情報TLを対応情報信号S_{sb}として副記憶部5bから読み出し、夫々に含まれているその曲Mの嗜好度情報をインクリメントし、更に最終聴取日情報及び再生停止位置情報を更新した後、副記憶部5bに対応情報信号S_{sb}として返還し、当該読み出し前の対応情報T及び一括情報TLに代えて記憶させる。

【0063】

一方、CPU4は、操作部2からの操作信号S_{cs}に基づいて、曲Mを端末装置10に転送する場合には、当該聴取される曲Mを曲信号S_mとして主記憶部5aから読み出すと共に、当該読み出された曲Mに対応する対応情報T及び一括情報TLを対応情報信号S_{sb}として副記憶部5bから読み出し、これらを纏めて外部出力信号S_{mo}としてインターフェース6に出力する。

【0064】

これにより、インターフェース6は、当該外部出力信号S_{mo}に対して予め設定された出力インターフェース処理を施し、サーバ出力信号S_{st}として端末装置10へ出力する。

【0065】

このとき、サーバ出力信号 S_{st} の端末装置 10 への出力を開始するタイミングとしては、例えば、端末装置 10 上又はサーバ 1 上或いはそれらを接続する接続ケーブル上に設けられた転送開始ボタンを操作することにより開始することとすることもできるし、或いは、端末装置 10 とサーバ 1 とが接続ケーブルにより接続されたことを検出し、当該接続されたことが検出されたとき即時に当該出力を開始することとしても良い。また、サーバ 1 から予め設定された距離の範囲内に端末装置 10 が接近したことを検知し、その検知したタイミングから当該出力を例えば無線通信等により開始することとすることもできる。

【0066】

他方、当該端末装置 10 から、後述するようにその内容が変更された端末情報 T 及び一括情報 T_L が端末出力信号 S_{ts} として返還されてきた時は、インターフェース 6 は、当該端末出力信号 S_{ts} に対して予め設定された入力インターフェース処理を施し、外部入力信号 S_{mi} として CPU 4 へ出力する。

【0067】

これにより、CPU 4 は、当該外部入力信号 S_{mi} に含まれている（内容が変更された）対応情報 T 及び一括情報 T_L を、対応情報信号 S_{sb} として副記憶部 5 b に出力し、当該副記憶部 5 b に記憶されている転送前の対応情報 T 及び一括情報 T_L に代えて記憶させる。

【0068】

なお、上述した各処理を実行するに当たり、CPU 4 は表示部 3 において表示すべき情報があるときは、当該情報を含む表示信号 S_{ds} を生成して表示部 3 に出力し、当該表示部 3 は当該表示信号 S_{ds} を受けてその必要な情報を表示する。

【0069】

次に、端末装置 10 における基本動作を説明する。

【0070】

先ず、サーバ 1 から、端末装置 10 において聴取することが所望されている曲 M 及び当該曲 M に対応する対応情報 T 並びに一括情報 T_L を含むサーバ出力信号 S_{st} が入力されると、インターフェース 13 は、当該サーバ出力信号 S_{st} に対

して予め設定された入力インターフェース処理を実行し、外部入力信号 S_{ti}として C P U 1 4 へ出力する。

【0071】

そして、C P U 1 4 は、当該外部入力信号 S_{ti}に含まれている曲Mと対応情報 T 及び一括情報 T L を分離し、曲Mの方は曲信号 S_mとして外部記憶部 1 6 内の主記憶部 1 6 a に相互に識別可能に格納すると共に、対応情報 T 及び一括情報 T L の方は対応情報信号 S_{sb}として外部記憶部 1 6 内の副記憶部 1 6 b に相互に識別可能に格納する。

【0072】

ここで、曲M並びに対応情報 T 及び一括情報 T L の格納の態様について図3右を用いて例示すると、当該図3右においては、サーバ1において（端末装置10において聴取するものとして）選択され転送されてきた第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10が主記憶部 1 6 a 内に蓄積・記憶されている。そして、これら各曲Mは、C P U 1 4 からの制御により曲信号 S_mとして当該C P U 1 4 に出力される。

【0073】

一方、同じく図3右においては、上述した第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10に夫々一対一に対応する態様で、サーバ1から転送されてきた第1対応情報 T 1、第2対応情報 T 2、第5対応情報 T 5、第8対応情報 T 8 及び第10対応情報 T 10 が副記憶部 1 6 b 内に蓄積・記憶されており、更に一括情報 T L も併せて副記憶部 1 6 b 内に記憶されている。そして、これら各対応情報 T 及び一括情報 T L は、C P U 1 4 からの制御により対応情報信号 S_{sb}として当該C P U 1 4 に出力される。

【0074】

次に、操作部 1 1 において主記憶部 1 6 a に記憶されている各曲Mのうち使用者が聴取を希望する曲Mが選択されると、当該操作部 1 1 は、その曲Mを示す操作信号 S_{tt}を生成してC P U 1 4 に出力する。

【0075】

これにより、C P U 1 4 は、操作部 1 1 からの操作信号 S_{tt}に基づいて、当該

聴取される曲Mを曲信号S_mとして主記憶部16aから読み出し、これを出力信号S_{ot}として出力部15に出力する。

【0076】

そして、出力部15は、当該出力信号S_{ot}内に含まれている曲Mを上記使用者に対して出力する。この出力の態様として具体的には、上記出力部7と同様に、例えば図示しないスピーカを介して直接出力しても良いし、或いは、出力部15にヘッドフォン又はイヤフォン等が接続されているときはそのヘッドフォン等に出力しても良い。

【0077】

これと並行して、CPU14は、その聴取される曲Mに対応する対応情報T及び一括情報T_Lを対応情報信号S_{sb}として副記憶部16bから読み出し、夫々に含まれているその曲Mの嗜好度情報をインクリメントし、更に最終聴取日情報及び再生停止位置情報を更新した後、副記憶部16bに対応情報信号S_{sb}として返還し、当該読み出し前の対応情報T及び一括情報T_Lに代えて記憶させる。

【0078】

そして、端末装置10における曲Mの聴取が全て終わると、操作部11からの操作信号S_{tt}に基づいて、CPU14は、上記内容が変更された対応情報T及び一括情報T_Lを副記憶部16bから対応情報信号S_{sb}として読み出し、これらを纏めて外部出力信号S_{to}としてインターフェース13に出力する。

【0079】

これにより、インターフェース13は、当該外部出力信号S_{to}に対して予め設定された出力インターフェース処理を施し、端末出力信号S_{ts}としてサーバ1へ出力する。

【0080】

このとき、端末出力信号S_{ts}のサーバ1への出力を開始するタイミングとしては、例えば、サーバ1と端末装置10との間の転送経路が確立された後、端末装置10が当該出力の必要性を認識したとき（より具体的には、例えば対応情報T又は一括情報T_Lが変更されたことが端末装置10において認識されたとき等）から出力を開始することとすることもできる。

【0081】

そして、サーバ1は、当該端末出力信号S_{ts}として返還されてきた端末情報T及び一括情報T_Lを、インターフェース6及びCPU4を介して副記憶部5bに出力し、上述したように、当該副記憶部5bに記憶されている転送前の対応情報T及び一括情報T_Lに代えて記憶させる。

【0082】

なお、上述した各処理を実行するに当たり、CPU14は表示部12において表示すべき情報があるときは、当該情報を含む表示信号S_{dt}を生成して表示部12に出力し、当該表示部12は当該表示信号S_{dt}を受けてその必要な情報を表示する。

【0083】

次に、上述した対応情報T及び一括情報T_Lの取扱いについて、図3及び図4を用いて例示しつつ詳説する。

【0084】

先ず、図3に示すように、サーバ1内の主記憶部5aに蓄積・記憶されている曲Mのうち、第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10を端末装置10に転送する旨の指示が操作部2において為されると、CPU4は当該選択された第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10を曲信号S_mとして主記憶部5aから読み出すと共に、当該第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10に対応する第1対応情報T₁、第2対応情報T₂、第5対応情報T₅、第8対応情報T₈及び第10対応情報T₁₀並びに一括情報T_Lを副記憶部5bから対応情報信号S_{sb}として読み出し、これらを含むサーバ出力信号S_{st}を生成して端末装置10へ出力する。このとき、転送される各対応情報Tにおける転送回数情報27は一分だけインクリメントされる。

【0085】

そして、サーバ出力信号S_{st}が端末装置10において受信されると、CPU14はこれに含まれる第1曲M1、第2曲M2、第5曲M5、第8曲M8及び第10曲M10を曲信号S_mとして主記憶部16aに記憶させると共に、対応する第

1対応情報T1、第2対応情報T2、第5対応情報T5、第8対応情報T8及び第10対応情報T10並びに一括情報TLを副記憶部16bに記憶させる。

【0086】

以上の処理によりサーバ1から端末装置10への曲M等の一回の転送が終了する。この状態では、図3右に示すように、転送された当該曲M等が外部記憶部16内に記憶されている。

【0087】

次に、端末装置10における当該記憶されている曲Mに対する選択及び聴取が開始されるわけであるが、このとき、一回の聴取が完了する度に、その聴取された曲Mに対応する対応情報Tにおける最終聴取日情報26及び嗜好度情報24並びに再生停止位置情報28がその聴取の態様に併せて更新される。より具体的には、同一の日に同じ曲Mが何度も聴取されたときはその曲Mの最終聴取日情報26は更新されないが、一方、嗜好度情報24は一度聴取されるたびにインクリメントされ、更に再生停止位置情報28は各聴取における再生停止位置（換言すれば、聴取終了位置）を示すように各聴取毎に更新される。

【0088】

また、これと並行して、一括情報TLにおける曲別最終聴取日一覧33及び曲別嗜好度一覧34も併せて対応する部分が更新される。

【0089】

次に、当該更新後の各対応情報T及び一括情報TLを、夫々第1対応情報T1'、第2対応情報T2'、第5対応情報T5'、第8対応情報T8'及び第10対応情報T10'並びに一括情報TL'とすると、端末情報10における曲Mの聴取が全て完了した時点では、図4右に示すように、上記した第1対応情報T1'等及び一括情報TL'が元の第1曲M1等と共に外部記憶部16内に記憶されている。

【0090】

そして、操作部11において現在端末装置10内に記憶されている曲Mの聴取を完了する旨の操作が為され、且つ端末装置10とサーバ1とが再度接続されると、CPU14は、この第1対応情報T1'、第2対応情報T2'、第5対応情

報T5'、第8対応情報T8'及び第10対応情報T10'並びに一括情報TL'により端末出力信号S_{ts}を構成してサーバ1に出力する。このとき、端末装置10内に記憶されていた第1曲M1等は、著作権保護の要請からサーバ1には転送されない。

【0091】

これにより、当該端末出力信号S_{ts}を受信したサーバ1はこれに含まれる第1対応情報T1'等及び一括情報TL'を対応情報信号S_{sb}として外部記憶部5内の副記憶部5bに出力し、転送前の第1対応情報T1、第2対応情報T2、第5対応情報T5、第8対応情報T8及び第10対応情報T10並びに一括情報TLに代えて新たに転送されてきた第1対応情報T1'、第2対応情報T2'、第5対応情報T5'、第8対応情報T8'及び第10対応情報T10'並びに一括情報TL'を記憶させる。

【0092】

以上の処理により、端末装置10における聴取の態様に応じて、副記憶部5bに蓄積・記憶されている各対応情報T及び一括情報TLの内容が更新されることとなる。

【0093】

そして、これ以後は、当該更新された内容に基づいて、次回の端末装置10に転送される曲Mが使用者により選択されたり、或いはサーバ1自体において聴取される曲Mが選択されたりする処理等が実行される。

【0094】

より具体的には、例えば、サーバ1又は新たに曲Mが転送された端末装置10において聴取する曲Mを選択する際に、更新された対応情報Tにおける嗜好度情報24の内容に基づいて嗜好度の高い曲M（すなわち、サーバ1又は端末装置10において頻繁に聴取されている曲M）から順に選択せしめるように表示部3又は12に表示させたり、或いは、サーバ1又は新たに曲Mが転送された端末装置10において曲Mを聴取する場合に、その曲Mに対応する対応情報Tにおける再生停止位置情報28に基づいて、前回まで聴取した位置の直後の位置から今回の端末装置10における聴取を開始するように構成したりすることができる。

【0095】

また、サーバ1又は新たに曲Mが転送された端末装置10において曲Mを選択する場合に、各曲Mに対応する対応情報Tにおける最終聴取日情報26に基づいて、最後に聴取した日が新しい順番に曲Mを選択させるように表示部3又は12に表示させることができる。

【0096】

なお、上述の実施形態における対応情報T及び一括情報TLの授受においては、図2に示す当該対応情報T及び一括情報TL全体を夫々その都度授受する場合について説明したが、これ以外に、当該対応情報T及び一括情報TLのうち端末装置10において変更された項目のみサーバ1に返信するように構成してもよい。この場合には、当該対応情報T及び一括情報TLの伝送に必要な情報量を低減して節約することができるようとなる。

(II) 予約処理の実施形態

次に、上述した如く逐次更新される一括情報TLを特に用いた予約処理の実施形態について、図5を用いて説明する。

【0097】

なお、図5は当該予約処理を示すフローチャートである。

【0098】

上述したように、一括情報TLにはサーバ1に蓄積・記憶されている全ての曲Mの曲名等が一覧として記述されているため、実施形態のオーディオシステムSにおいては、これを用いて次回サーバ1から端末装置10に転送すべき曲Mを予め端末装置10において予約することができる。

【0099】

すなわち、当該予約処理としては、図5に示すように、最初にサーバ1から端末装置10への曲Mの転送と共に一括情報TLの転送が開始されるか否かが確認され（ステップS1）、転送が実行されないときは（ステップS1；NO）そのまま待機し、一方、転送が実行されるときは（ステップS1；YES）、次に、その転送を曲Mと共に実行する（ステップS2）。

【0100】

次に、当該転送された曲Mの聴取が端末装置10において実行されている間は、転送された一括情報TLにおいてもそれに含まれる曲別最終聴取日一覧33及び曲別嗜好度一覧34の更新がその曲Mの聴取の態様に応じて行われているが、このとき、次回端末装置10に転送すべき曲Mの予約を行う旨の操作が操作部11において実行されると、CPU14は、一括情報TLにおける保有曲名一覧30及び保有曲アーティスト一覧31並びに曲別録音日一覧32に基づき、サーバ1内に蓄積・記憶されている曲Mの曲名、アーティスト名及び録音日を表示部12に表示する（ステップS3）。この場合に、それまでの曲Mの聴取の態様に合わせて更新されている嗜好度情報24を用いて嗜好度の高い順に表示しても良い。

【0101】

そして、全曲名が表示されてその中から次回端末装置10に転送されるべき曲Mが選択（予約）されると（ステップS4）、その内容をCPU14内の図示しないメモリ等に記憶することにより当該予約処理を実行し（ステップS5）、更なる予約があるか否かが表示部12にその旨を表示する等して確認される（ステップS6）。

【0102】

ステップS6の判定において、更なる予約が必要であるときは（ステップS6；YES）再度ステップS4乃至S6に戻って予約処理を行い、一方、予約処理が完了しているときは（ステップS6；NO）、その予約内容に応じて副記憶部5bに記憶されている一括情報TL内の予約情報35を更新して一括情報TLとする。

【0103】

そして、端末装置10における曲Mの聴取が完了して上述した対応情報T'及び一括情報TL'を再度サーバ1に返還するか否かが確認され（ステップS7）、返還が指示されていないときは（ステップS7；NO）指示されるまで待機し、一方、返還が指示されているときは（ステップS7；YES）、当該対応情報T'及び一括情報TL'をサーバ1に返還して（ステップS8）一連の予約処理を終了する。

【0104】

これ以後は、サーバ1において、次回の端末装置10に対する曲Mの転送時に、そのときの予約情報35に含まれている予約内容に応じて転送すべき曲Mが選択されてその転送が実行されることとなる。

(III) 転送曲選択処理の実施形態

次に、上述した如く逐次更新される対応情報Tにおける転送回数情報27を特に用いた転送曲選択処理の実施形態について、図6を用いて説明する。

【0105】

なお、図6は当該転送曲選択処理の内容を示す模式図である。

【0106】

上述したように、転送回数情報27は、各曲Mに対応付けて設けられているものであり、その曲Mのサーバ1から端末装置10への転送が行われる度に「1」だけインクリメントされる情報である。

【0107】

そこで、実施形態のオーディオシステムSにおいては、当該転送回数情報27が予め設定されている閾値以上の値となったときには、その値となっている転送回数情報27に対応する曲Mをサーバ1から端末装置10への転送の対象から除外することとする。

【0108】

すなわち、より具体的に図6を用いて説明すると、先ず、サーバ1において端末装置10に転送すべき曲Mを選択する場合には、例えば図6左に示すように、各曲Mに対応する嗜好度情報24に基づいて当該嗜好度が高い順に表示部3に表示し、その選択が実行される。図6左の場合は、最も嗜好度の高い曲Mから数えて5曲分を転送することと予め設定されている場合であり、具体的には、最も嗜好度の高い（換言すれば使用者の嗜好に最も合致している）第52曲M52から順に、第285曲M285、第90曲M90、第1684曲M1684及び第725曲M725が転送される曲Mとして選択され、これらが対応する対応情報T及び一括情報TLと共に転送される。

【0109】

このとき、当該転送が完了された時点で、CPU14により、第52曲M52に対応する第52対応情報T52、第285曲M285に対応する第285対応情報T285、第90曲M90に対応する第90対応情報T90、第1684曲M1684に対応する第1684対応情報T1684及び第725曲M725に対応する第725対応情報T725の夫々における転送回数情報27が「1」だけインクリメントされた後に、上記副記憶部16bに記憶される。なお、当該転送回数情報27のインクリメントは、当該転送が完了する前にサーバ1側で行ってよい。

【0110】

そして、端末装置10における各曲Mの聴取が完了し、更に対応する更新された対応情報T'及び一括情報TL'がサーバ1に返還されると、その段階では、図6右に示すように、第52対応情報T52、第285対応情報T285、第90対応情報T90、第1684対応情報T1684及び第725対応情報T725の夫々における嗜好度情報24が端末装置10における聴取の態様に応じて更新されていると共に、各対応情報T'における転送回数情報27も、そのサーバ1からの転送前(図6左)に比して夫々「1」だけインクリメントされている(図6右においてより具体的には、第52対応情報T52における転送回数情報は「2」から「3」に、第285対応情報T285における転送回数情報は「1」から「2」に、「2」から「3」に、第90対応情報T90における転送回数情報は「2」から「3」に、第1684対応情報T1684における転送回数情報は「1」から「2」に、「1」から「2」に、第725対応情報T725における転送回数情報は「1」から「2」に、「1」から「2」に、夫々インクリメントされている。)。

【0111】

このとき、上述した転送回数情報27についての閾値が仮に「3」とされないとすると、次回のサーバ1からの曲Mの転送においては、過去の転送回数が「3」以上の曲Mはその転送対象から除外されて転送する曲Mの転送が行われる。

【0112】

より具体的には、次回の転送における転送する曲Mの選択では、転送回数情報27が「3」に達した第52曲M52及び第90曲M90は転送対象から除外さ

れ、それ以外の曲Mの中で嗜好度情報24の値が高いものから順に転送候補として提示されることとなり、その中の例えば上位5曲（図6右の場合は、第285曲M285、第725曲M725、第1684曲M1684、第9曲M9及び第697曲M697）が転送曲として端末装置10に転送される。

【0113】

なお、転送回数情報27が上記閾値に到達した曲Mは、それ以後全く転送されなくなるのであるが、この場合には、以下に述べる方法により当該転送回数情報27が初期化され（すなわち、その値が「0」とされ）、その後は再度転送候補の曲Mとなるのである。

【0114】

すなわち、当該転送回数情報27の初期化の方法としては、第一に、サーバ1上に初期化スイッチを予め設けておき、これを使用者が操作することで転送回数情報27を初期化するように構成することができる。

【0115】

また、第二に、対応情報Tの一部として、サーバ1から端末装置10への転送が実施されたにも拘わらず対応する曲Mが転送されなかった回数を示す転送非実行回数情報を各曲M毎に別途設けておき、転送回数情報27が上記閾値となったことで転送対象から除外された後に他の曲Mの転送が実行された回数を上記転送非実行回数情報として記憶し、当該転送非実行回数情報の値が予め設定された他の閾値（例えば、「2」）となった時点で、転送回数情報27を初期化するように構成しても良い。

【0116】

更に、第三として、転送回数情報27がその閾値（図6の場合は「3」）に到達する転送が実行されてからCPU4内の図示しないタイマにおける計時を開始し、その後に（すなわち転送対象から除外され始めてから）予め設定された期間（例えば一週間）が経過したときに当該転送回数情報27を初期化するように構成しても良い。なお、当該期間の計時開始は、転送回数情報27がその閾値に到達する転送が実行されたとき以外に、その次の転送が行われたときから計時を開始しても良い。

【0117】

なお、上述した転送回数情報27をサーバ1でのみ管理すべく、当該転送回数情報27は端末装置10には転送しないこととし、サーバ1から端末装置10に対して曲Mが転送される度に、その転送された曲Mに対応する転送回数情報27をサーバ1においてのみインクリメントすることとしてもよい。

【0118】

以上説明したように、実施形態のオーディオシステムSの動作によれば、各曲Mに一対一に対応すると共に曲名情報20及び嗜好度情報24等を含む対応情報Tを当該各Mと共に端末装置10に転送し、端末装置10においてその聴取の態様に応じて対応情報Tを変更した後にサーバ1に返還し、更に当該端末装置10から返還されてきた対応情報T(T')を転送前の元の対応情報Tに代えて蓄積・記憶するので、当該端末装置10における聴取の態様をサーバ1において把握することができ、次回の曲Mの端末装置10への転送の際にその態様を反映して転送することができる。

【0119】

また、端末装置10における活用の態様をサーバ1において把握することができるので、当該サーバ1において各曲Mを聴取する場合にも、端末装置における聴取の態様を反映させることでオーディオシステムSとしての利便性を更に向上させることができる。

【0120】

更に、保有曲名一覧30及び曲別嗜好度一覧34等を含む一括情報TLを当該各曲Mと共に端末装置10に出力し、端末装置10においてその聴取の態様に応じて一括情報TLを変更した後にサーバ1に返還し、更に当該端末装置10から返還されてきた一括情報TL(TL')を転送前の元の一括情報TLに代えて記憶するので、当該端末装置10における聴取の態様をサーバ1において更に総括的に把握することができ、次回の曲Mの端末装置10への転送の際にその態様を反映して転送することができる。

【0121】

また、端末装置10における聴取の態様をサーバ1において更に総括的に把握

することができるので、当該サーバ1において各曲Mを活用する場合にも、端末装置10における聴取の態様を反映させることができる。

【0122】

また、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各曲を聴取する場合にも、端末装置における聴取の態様を反映させることができる。

【0123】

なお、上述した実施形態においては、サーバ1に蓄積・記憶されている情報が複数の曲Mである場合について説明したが、これ以外に、例えばサーバ1に、複数の映画等の画像情報を、これらの内容又は属性を個々に示す対応情報並びに総括的にそれらを示す一括情報と共に蓄積・記憶しておき、これらを、当該画像情報の再生が可能な携帯型の端末装置に転送して聴取する場合にも本発明を適用することが可能である。

【0124】

更に、上記曲又は画像情報の転送経路としては、上述した家庭内の有線経路ではなく、例えばインターネット等のネットワークを介して離れた場所に転送しても良いし、或いは近年規格化されつつあるいわゆるブルートゥース(Blue Tooth)規格等に則った短距離無線通信方法を用いて曲又は画像情報を転送しても良いし、更には、サーバ1及び端末装置10の夫々に携帯電話機を接続し、それらを用いて電話回線を介して曲又は画像情報を転送しても良い。

【0125】

また、上述した各実施形態に係るサーバ1又は端末装置10における処理に対応するプログラムをフレキシブルディスク又はハードディスク等の情報記録媒体に記録させておき、これをサーバ1及び端末装置10に備えられた汎用のマイクロコンピュータにより読み出して実行することで、当該マイクロコンピュータを、上記CPU4及びCPU14として機能させることも可能である。

【0126】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項1に記載の発明によれば、各情報に一对一に対応

する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還されてきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するので、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0127】

従って、端末装置の使用者の活用の態様に合わせて情報を端末に出力することができ、情報処理システムとしての利便性を向上させることができる。

【0128】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることで情報処理システムとしての利便性を更に向上させることができる。

【0129】

請求項2に記載の発明によれば、請求項1に記載の発明の効果に加えて、各情報を一括して示す一括情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還されてきた一括情報を出力前の元の一括情報に代えて記憶するので、端末装置においてその活用の態様に応じて一括情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0130】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができ。

【0131】

請求項3に記載の発明によれば、請求項2に記載の発明の効果に加えて、一括情報が一括内容情報及び一括属性情報を少なくとも含んでいるので、より明確に

各情報の活用の態様をサーバ装置において把握することができる。

【0132】

請求項4に記載の発明によれば、請求項1から3のいずれか一項に記載の発明の効果に加えて、各情報が曲であると共に、内容情報が当該曲の名称であり、更に属性情報が当該曲が端末装置において活用された度合いを示す活用情報であるので、複数の曲を端末装置に対して出力し、当該端末装置においてその曲を聴取したときに対応情報の内容を変更して返還することで、当該端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができ、次の曲の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0133】

また、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各曲を聴取する場合にも、端末装置における聴取の態様を反映させることができる。

【0134】

請求項5に記載の発明によれば、各情報と共に出力されてきた対応情報を、各情報の活用の態様に応じて変更した後にサーバ装置に返還するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力させることができる。

【0135】

従って、端末装置の使用者の活用の態様に合わせて情報を端末に出力することができ、情報処理システムとしての利便性を向上させることができる。

【0136】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることで情報処理システムとしての利便性を更に向上させることができる。

【0137】

請求項6に記載の発明によれば、請求項5に記載の発明の効果に加えて、各情報を一括して示す一括情報を当該各情報と共に取得し、各情報の活用の態様に応

じて一括情報を変更した後にサーバ装置に返還するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0138】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において更に総括的に把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることができる。

【0139】

請求項7に記載の発明によれば、請求項6に記載の発明の効果に加えて、一括情報に一括内容情報及び一括属性情報が少なくとも含まれているので、より明確に各情報の活用の態様をサーバ装置において把握することができる。

【0140】

請求項8に記載の発明によれば、請求項5から7のいずれか一項に記載の発明の効果に加えて、複数の曲を聴取したときに対応情報の内容を変更して返還するので、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の曲の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0141】

また、端末装置における曲の聴取の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各曲を聴取する場合にも、端末装置における聴取の態様を反映させることができる。

【0142】

請求項9に記載の発明によれば、各情報に一对一に対応する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還し、更に当該端末装置から返還してきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0143】

従って、端末装置の使用者の活用の態様に合わせて情報を端末に出力してこれを活用することができ、情報処理システムとしての利便性を向上させることができる。

【0144】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることで情報処理システムとしての利便性を更に向上させることができる。

【0145】

請求項10に記載の発明によれば、各情報に一对一に対応する対応情報を当該各情報と共に端末装置に出力し、更に当該端末装置から返還されてきた対応情報を出力前の元の対応情報に代えて記憶するようにサーバコンピュータが機能するので、端末装置においてその活用の態様に応じて対応情報を変更した後にサーバ装置に返還することで、当該端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出力することができる。

【0146】

従って、端末装置の使用者の活用の態様に合わせて情報を端末に出力することができ、情報処理システムとしての利便性を向上させることができる。

【0147】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることで情報処理システムとしての利便性を更に向上させることができる。

【0148】

請求項11に記載の発明によれば、各情報と共に出力されてきた対応情報を、各情報の活用の態様に応じて変更した後にサーバ装置に返還するように端末コンピュータが機能するので、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができ、次回の情報の端末装置への出力の際にその態様を反映して出

力させることができる。

【0149】

従って、端末装置の使用者の活用の態様に合わせて情報を端末に出力することができ、情報処理システムとしての利便性を向上させることができる。

【0150】

また、端末装置における活用の態様をサーバ装置において把握することができるので、当該サーバ装置において各情報を活用する場合にも、端末装置における活用の態様を反映させることで情報処理システムとしての利便性を更に向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施形態のオーディオシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図2】

実施形態の対応情報及び一括情報の内容を示す図であり、(a)は対応情報の内容を示す図であり、(b)は一括情報の内容を示す図である。

【図3】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図(I)である。

【図4】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図(II)である。

【図5】

実施形態の予約処理を示すフローチャートである。

【図6】

実施形態の転送曲選択処理を示す模式図である。

【符号の説明】

1 ……サーバ

2、 1 1 ……操作部

3、 1 2 ……表示部

4、 1 4 ……C P U

5、 1 6 ……外部記憶部

5 a、16 a … 主記憶部
5 b、16 b … 副記憶部
6、13 … インタフェース
7、15 … 出力部
10 … 端末装置
20 … 曲名情報
21 … 読み仮名情報
22 … アーティスト情報
23 … ジャンル情報
24 … 嗜好度情報
25 … 録音日情報
26 … 最終聴取日情報
27 … 転送回数情報
28 … 再生停止位置情報
30 … 保有曲名一覧
31 … 保有曲アーティスト一覧
32 … 曲別録音日一覧
33 … 最終聴取日一覧
34 … 曲別嗜好度一覧
35 … 予約情報
S … オーディオシステム
M 1 … 第1曲
M 2 … 第2曲
M 3 … 第3曲
M 4 … 第4曲
M 5 … 第5曲
M 6 … 第6曲
M 7 … 第7曲
M 8 … 第8曲

M9…第9曲

M10…第10曲

M11…第11曲

M12…第12曲

M52…第52曲

M73…第73曲

M90…第90曲

M136…第136曲

M285…第285曲

M697…第697曲

M725…第725曲

M917…第917曲

M1684…第1684曲

T…対応情報

T1、T1'…第1対応情報

T2、T2'…第2対応情報

T3…第3対応情報

T4…第4対応情報

T5、T5'…第5対応情報

T6…第6対応情報

T7…第7対応情報

T8、T8'…第8対応情報

T9…第9対応情報

T10、T10'…第10対応情報

T11…第11対応情報

T12…第12対応情報

TL、TL'…一括情報

Sm…曲信号

Ssb…対応情報信号

S_{cs}、S_{tt}…操作信号

S_{os}、S_{ot}…出力信号

S_{mo}、S_{to}…外部出力信号

S_{st}…サーバ出力信号

S_{ts}…端末出力信号

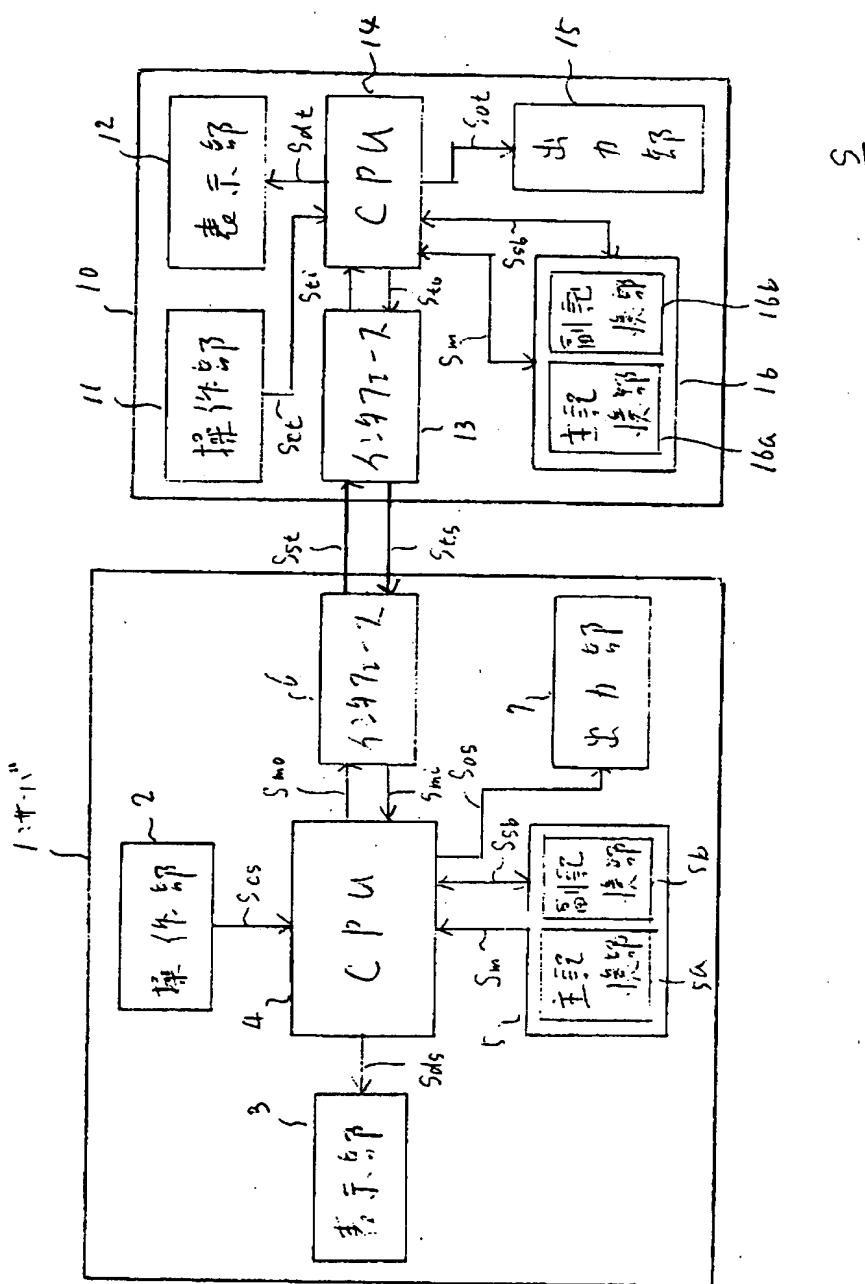
S_{mi}、S_{ti}…外部入力信号

S_{ds}、S_{dt}…表示信号

【書類名】 図面

【図1】

実施形態のオーディオシステムの全体構成を示すブロック図



【図2】

実施形態の対応情報及び一括情報の内容

曲名情報	～20
読み仮名情報	～21
アーティスト情報	～22
ジャンル情報	～23
嗜好度情報	～24
録音日情報	～25
最終聴取日情報	～26
転送回数情報	～27
再生停止位置情報	～28

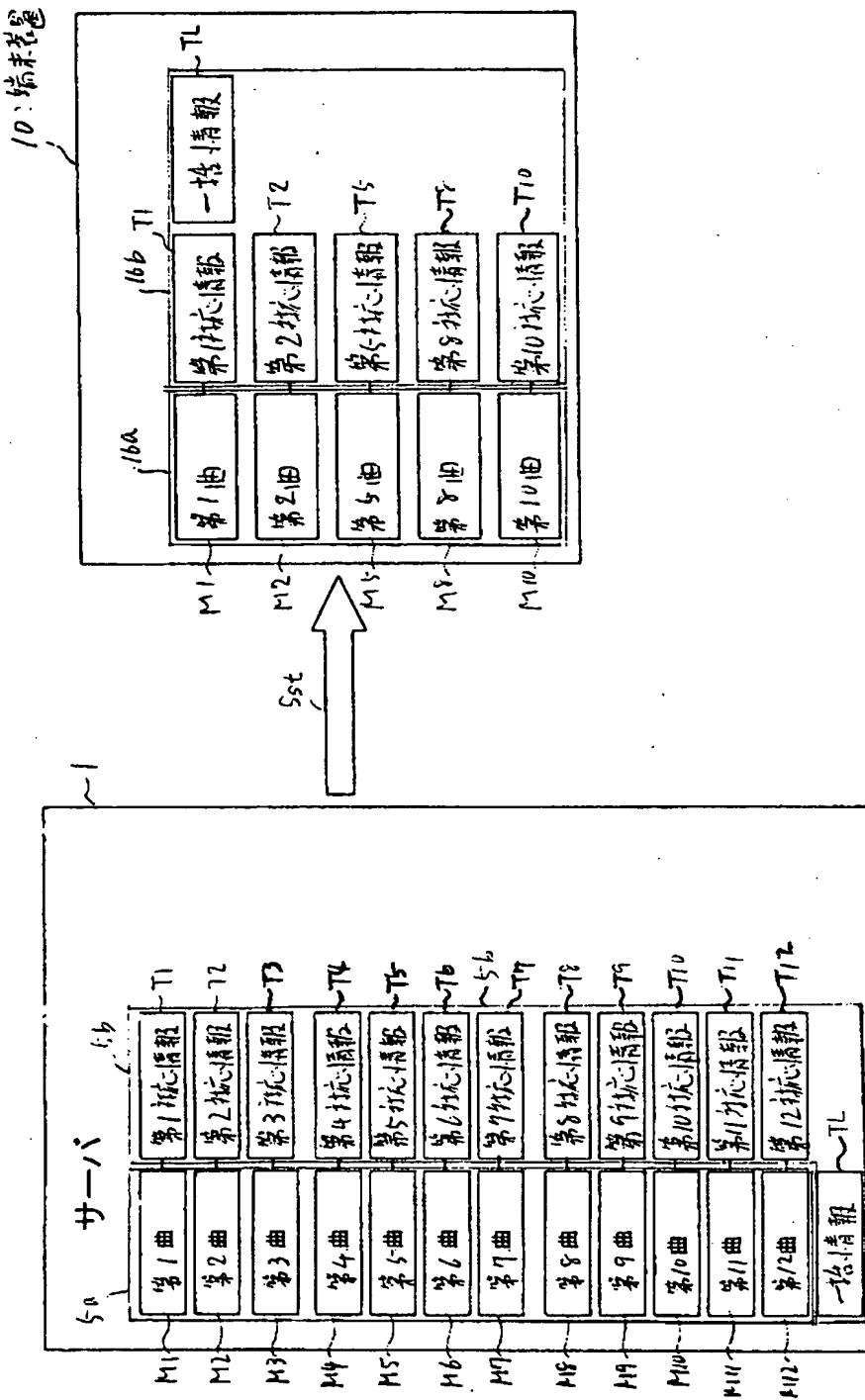
(a)

保有曲名一覧	～30
保有曲アーティスト一覧	～31
曲別録音日一覧	～32
曲別最終聴取日一覧	～33
曲別嗜好度一覧	～34
予約情報	～35

(b)

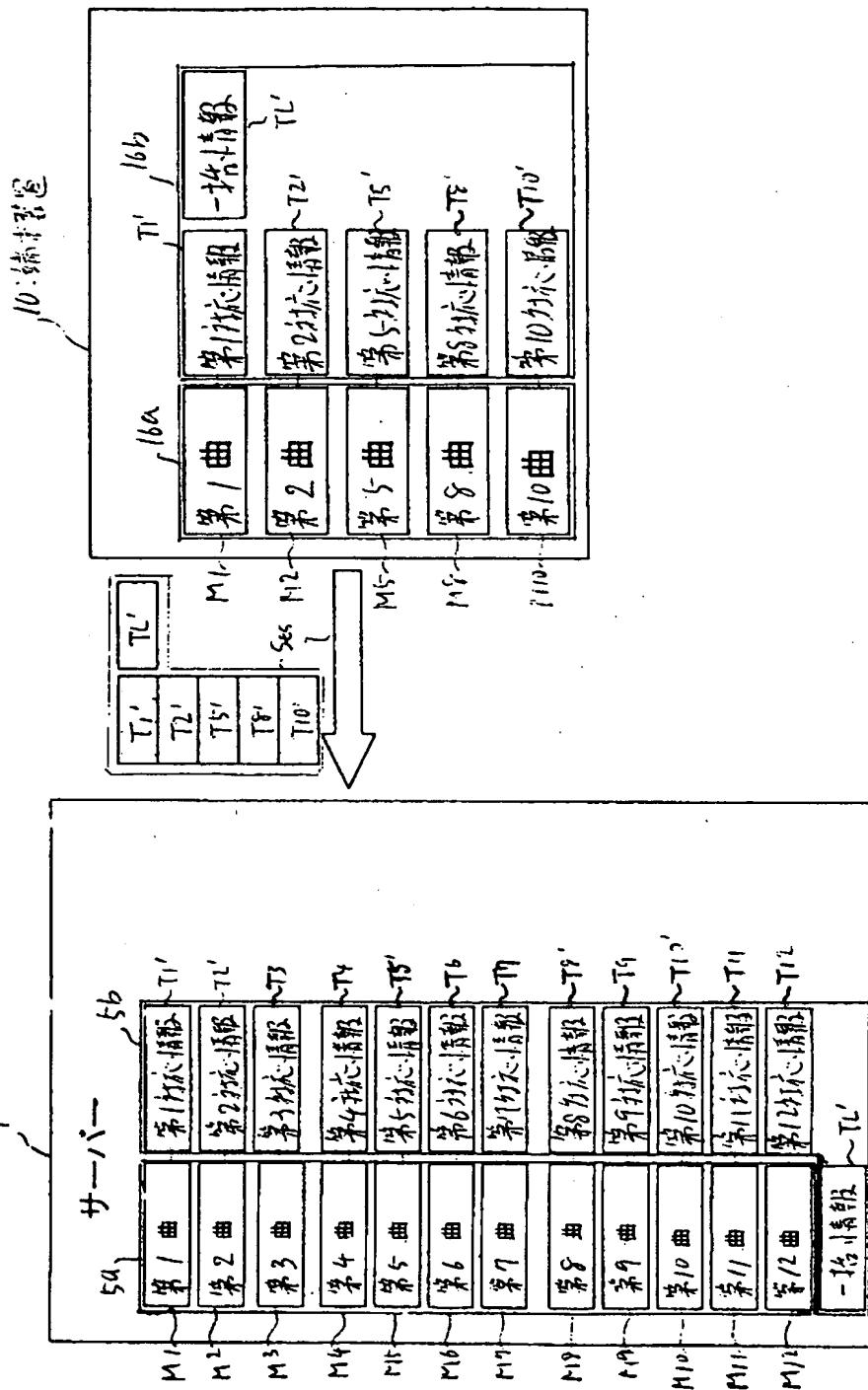
【図3】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図（I）

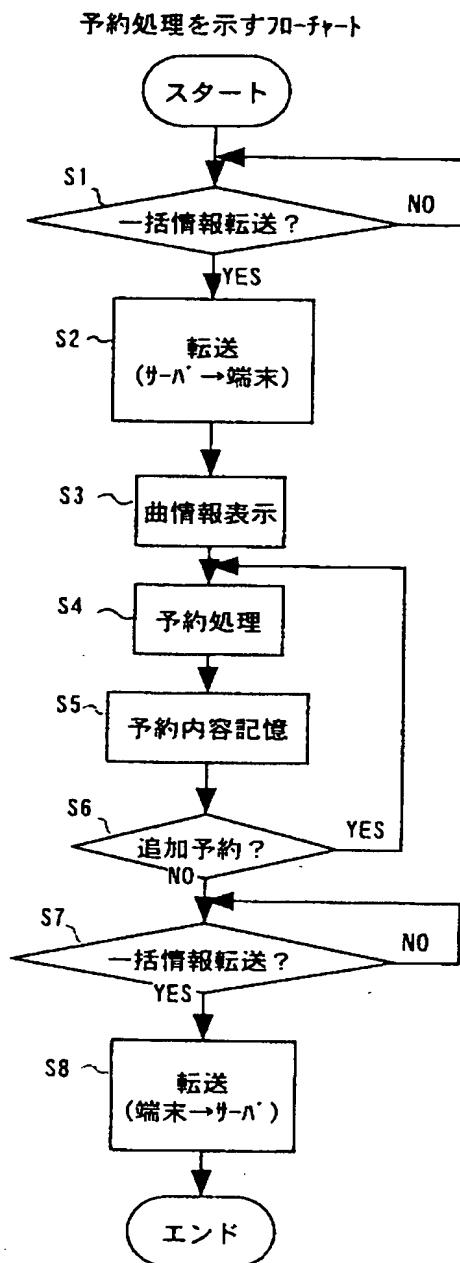


【図4】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図 (II)

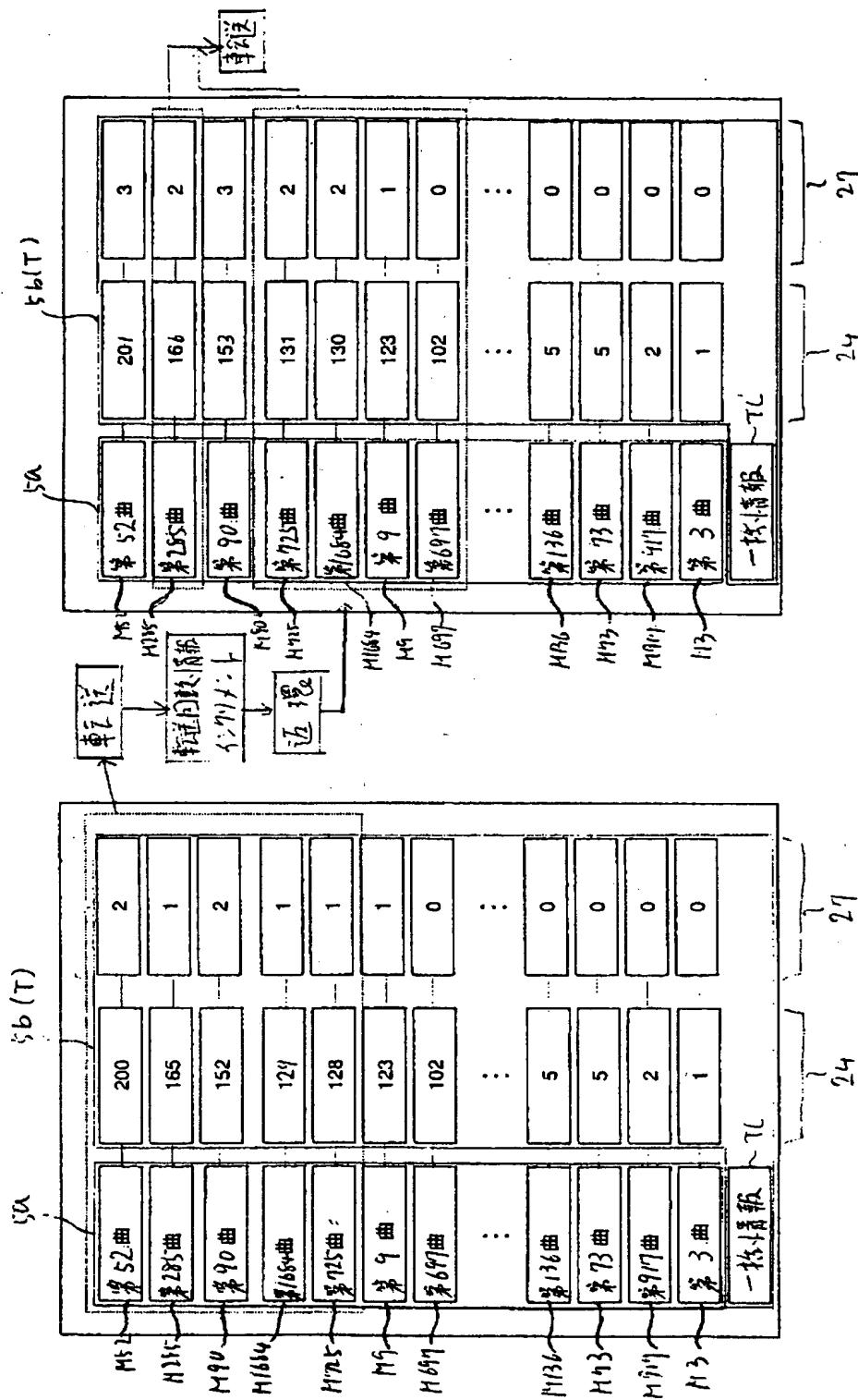


【図5】



【図6】

実施形態の転送曲選択処理を示す模式図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 端末装置の使用者における聴取の態様に合わせて曲を複写するように蓄積しておくことが可能であると共に曲を聴取する際の利便性を向上させることができ可能なサーバ装置等を提供する。

【解決手段】 曲を蓄積する主記憶部5aを備え、曲を端末装置10に出力するサーバ1と、出力された曲を聴取させる端末装置10と、を含んで構成されるオーディオシステムSにおいて、サーバ1は、各曲に一対一に対応し且つ各曲の内容及び属性を示す対応情報を記憶する副記憶部5bと、端末装置10に転送すべき曲を対応する対応情報を共に端末装置10に転送すると共に、端末装置10から転送した対応情報が返還されてきたとき、返還されてきた対応情報を転送前の対応情報に代えて副記憶部5bに記憶させるCPU4と、を備え、端末装置10は、聴取された曲に対応する対応情報を、当該聴取の態様に依存して変更すると共に変更された対応情報をサーバ1に返還するCPU14を備える。

【選択図】 図1

【書類名】 手続補正書

【提出日】 平成13年 1月10日

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2000-395799

【補正をする者】

【識別番号】 000005016

【氏名又は名称】 バイオニア株式会社

【代理人】

【識別番号】 100083839

【弁理士】

【氏名又は名称】 石川 泰男

【電話番号】 03-5443-8461

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 全図

【補正方法】 変更

【補正の内容】 1

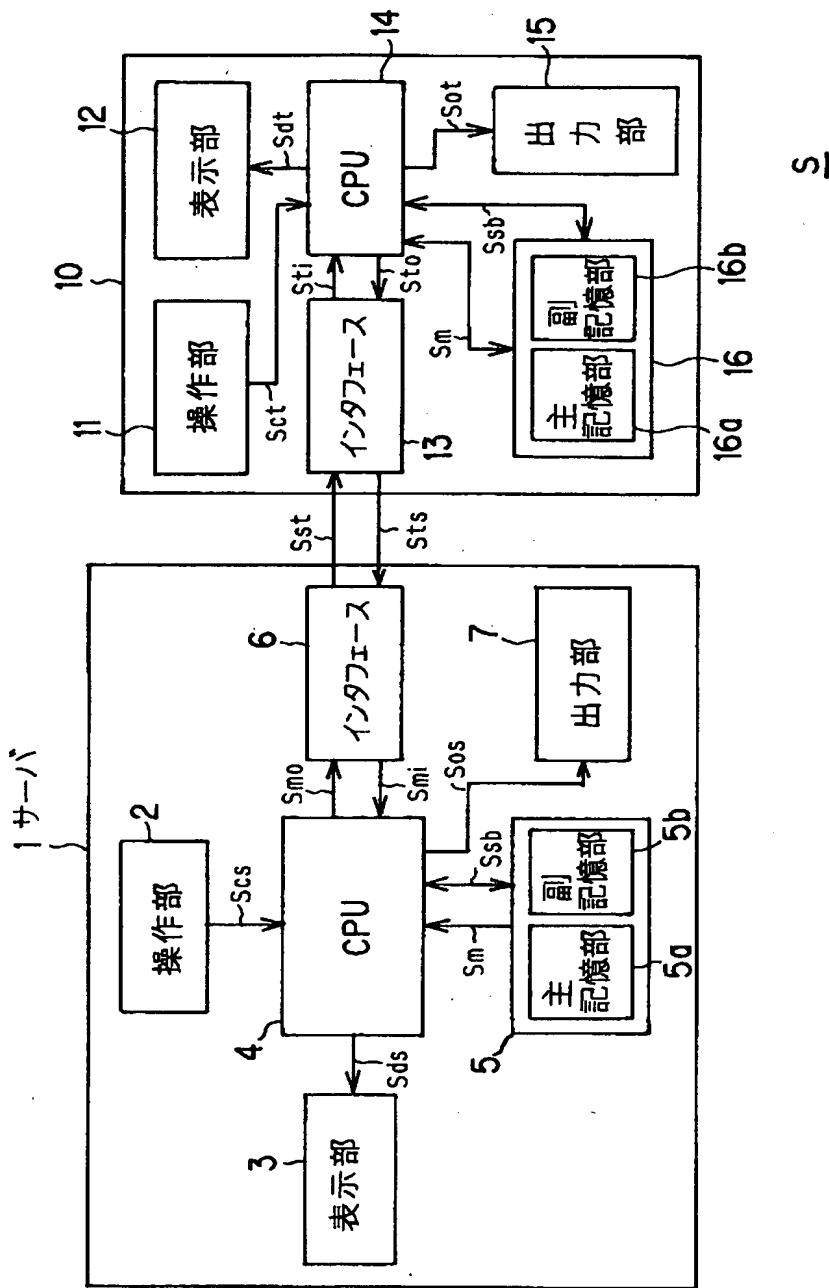
【その他】 図面の実体的内容については変更なし。

【プルーフの要否】 要

【書類名】 図面

【図1】

実施形態のオーディオシステムの全体構成を示すブロック図



【図2】

実施形態の対応情報及び一括情報の内容

曲名情報	20
読み仮名情報	21
アーティスト情報	22
ジャンル情報	23
嗜好度情報	24
録音日情報	25
最終聴取日情報	26
転送回数情報	27
再生停止位置情報	28

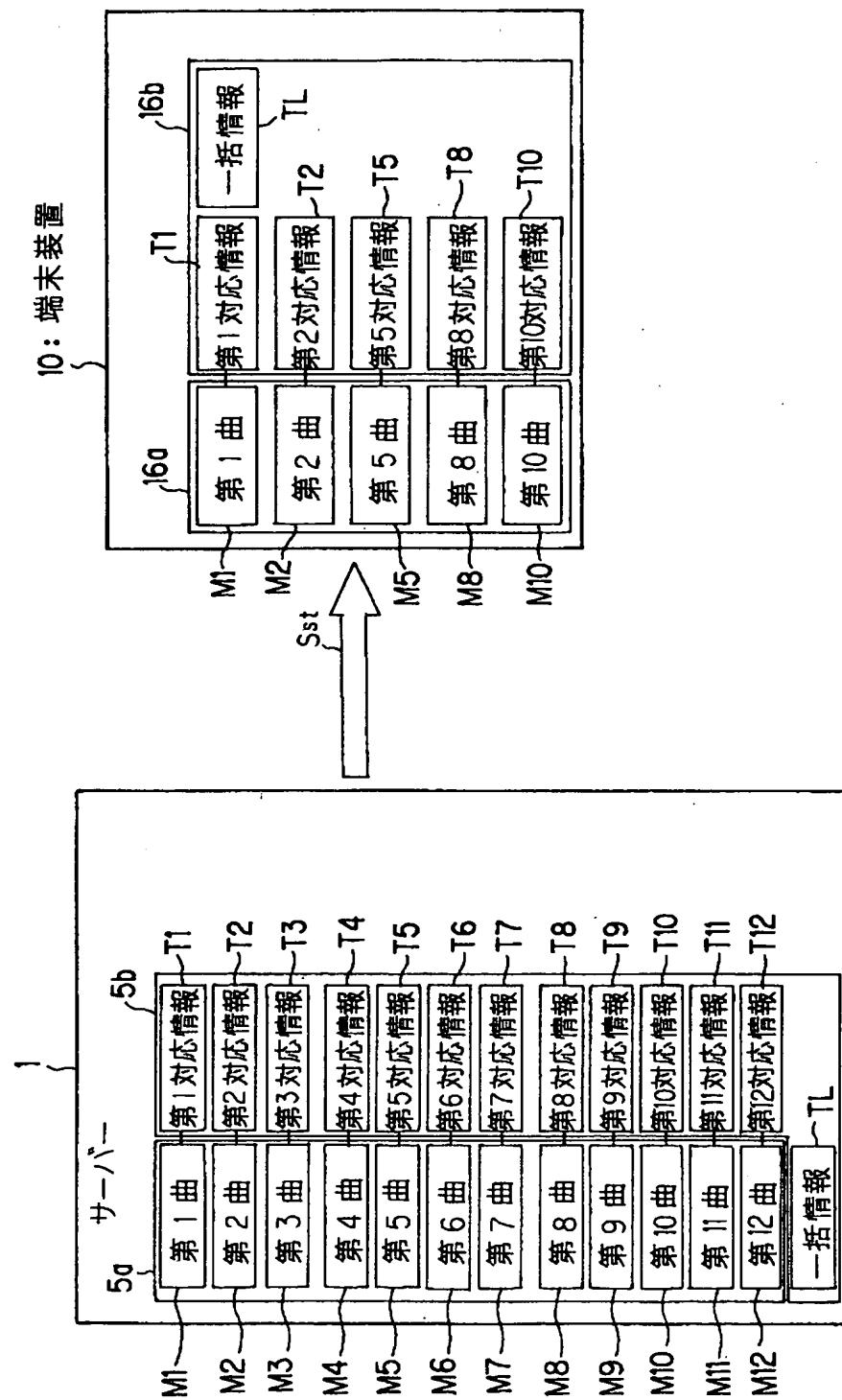
(a)

保有曲名一覧	30
保有曲アーティスト一覧	31
曲別録音日一覧	32
曲別最終聴取日一覧	33
曲別嗜好度一覧	34
予約情報	35

(b)

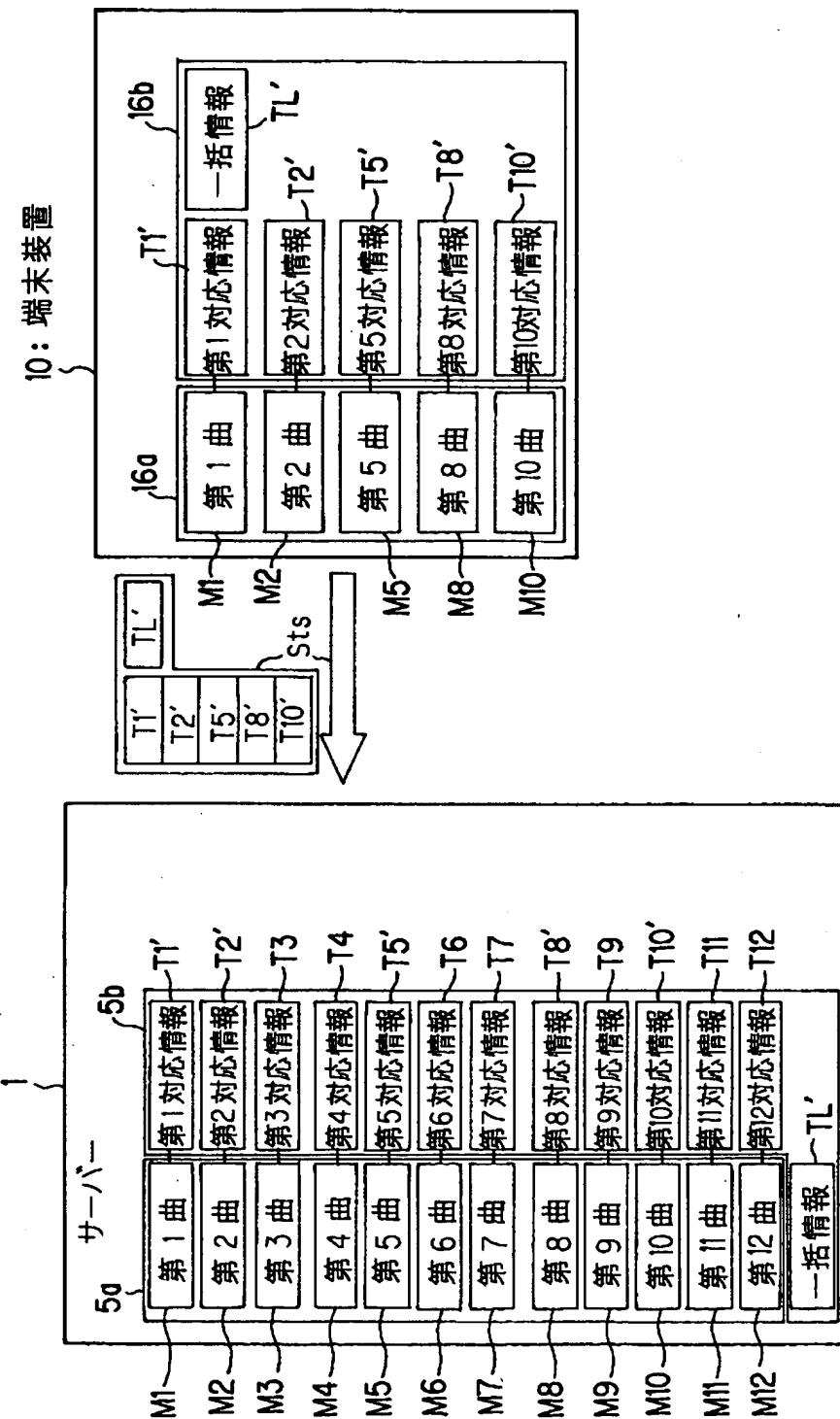
【図3】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図(I)



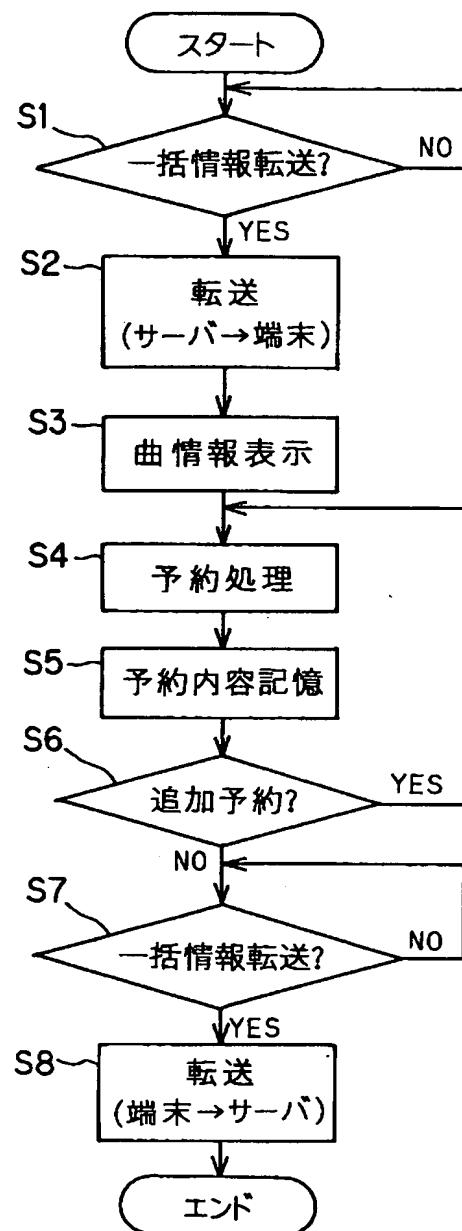
【図4】

実施形態に係る対応情報及び一括情報の取扱いを示す模式図(II)



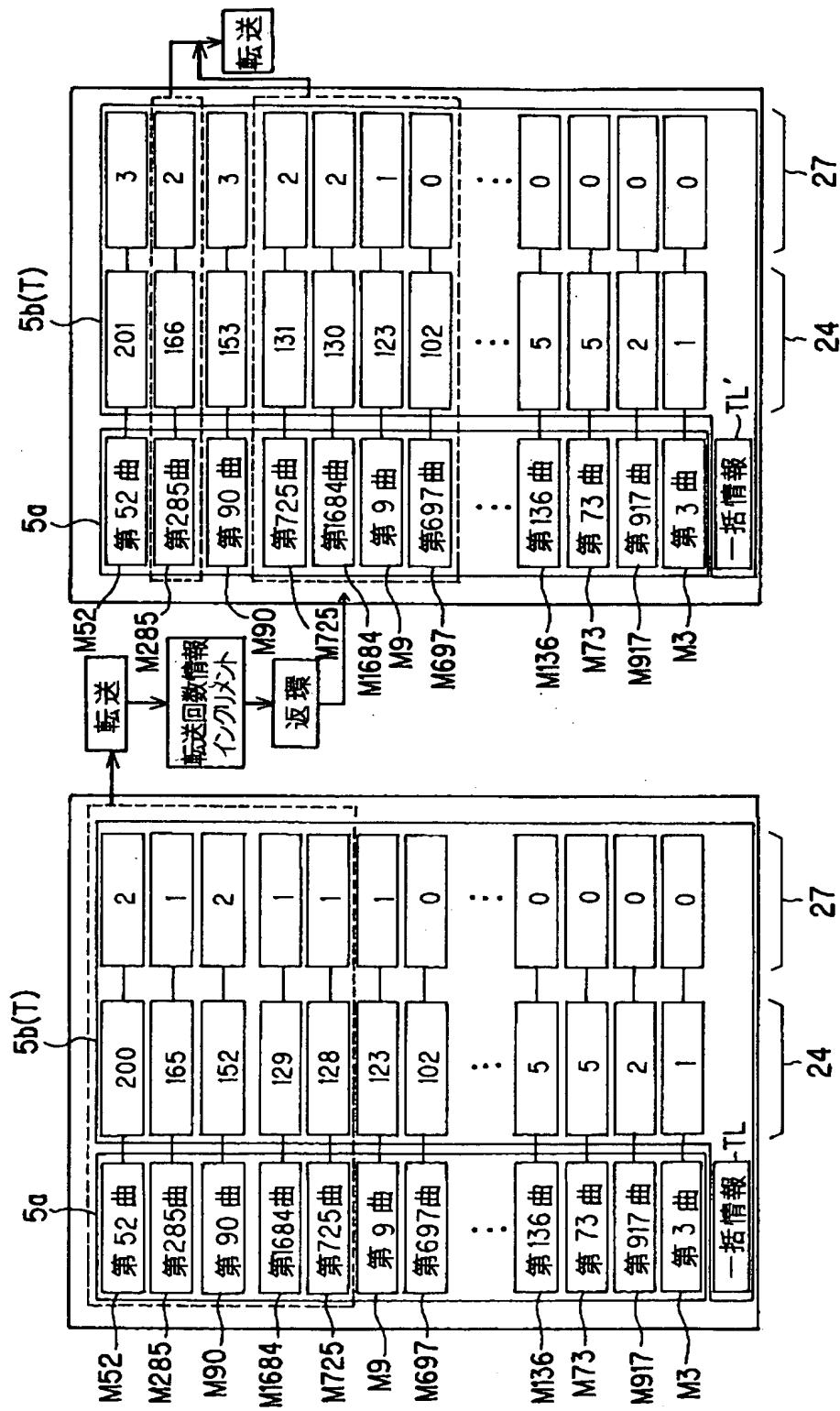
【図5】

予約処理を示すフローチャート



【図6】

実施形態の転送曲選択処理を示す模式図



出願人履歴情報

識別番号 [000005016]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

氏 名 バイオニア株式会社